

科目名 東アジア文化論

教員名 古田 富建

【授業の到達目標】

- ・学生が講義を通じて東アジア(日本・韓国・中国)の文化的な特徴や共通点を理解できる
- ・学生が講義を通じて東アジアの中の日本の文化的な特徴を主に思想的な側面(儒教)から理解できる
- ・学生が伝統社会から現代社会にまで見られる東アジアの特徴を主にキリスト教文明を比較して理解できる

【授業のテーマ】

日本、中国、韓国の東アジアに共通する文化ツールといえる「儒教」と「漢字」に焦点を当てて解説する。その中のものの理解、漢字の役割以外にも、受容の仕方、文化的な発展の共通点や違いについて理解を深める。

【授業概要】

日中韓は「東アジア文化圏」と呼ばれる漢字を1つのツールとしながら儒教を取り入れたエリアとして規定できる。日中韓の共通項ともいえる漢字とはどんな役割をしたのか、そしてその漢字を通じて伝わった「儒教」とは何かを解説し、儒教の三国の受容の仕方や違いを探る。

また儒教とは決して古めかしい伝統思想ではなく東アジアにおいては現在も文化に強い影響を与えていた思想である。東アジアにおける儒教の現在にも迫る。儒教と現代中国とのかかわりに関するDVDなども視聴する。

【準備学習】

毎回授業前に小テストを実施するのでしっかりと復習をすること
授業中に配布する参考資料に目を通しておくこと(それを前提に講義を行う)

【授業計画】

1. オリエンテーションと東アジア文化圏とは何か?
2. 漢字の成り立ちと東アジアにおける受容
3. 孔子・孟子について(儒家)
4. 儒教の教えについて:「論語」「五倫」「孝」
5. 儒教国家と王朝:中華思想と王化思想
6. 東アジアの社会制度①:科挙制度
7. 東アジアの社会制度②:宗族
8. 東アジアの社会制度③:祭祀儀礼
9. 朝鮮半島における儒教の受容
10. 日本における儒教の受容
11. ベトナムにおける儒教の受容
12. 現代東アジアにおける儒教の継承
13. 現代東アジアにおける儒教の断絶
14. 東アジアは分かれ合えるのか?(歴史認識)
15. まとめと到達度の確認

【評価方法】

到達度の確認(70%),小テスト(20%),DVDの感想(10%)

【テキスト】

使用せず

レジュメを配布する
(テキスト ISBN)

【参考文献】

適宜授業中に紹介する

【オフィスアワー】

追って知らせるが、メールなどで事前にアポイントを取ること

【学生へのメッセージ】

- ・私語や意図的な居眠り、携帯いじりなど教員、他の受講生の授業の妨げになる迷惑行為に関しては厳しく対応する。
- ・韓国語・韓国文化専攻で卒業論文を書こうと思っている学生は積極的に履修すること。